



しずおか

1973.10.28

静岡県民会館

山梨大学マンドリンクラブ

◇ あいさつ ◇

山梨大学マンドリンクラブ部長

小 林 誠 一 郎

本日、静岡県民会館に於いて、3回目の静岡演奏会を無事開催するに至りました。つきましては、私達、山梨大学マンドリンクラブに御厚情をお寄せ下さる皆様方に心から感謝の意を述べさせて戴きます。

私達は、過去数回にわたり各地に於いて、このような演奏会を催して来ました。その間、各人がサークル活動の中での地方演奏会の意義をそれぞれが認め、精一杯の努力を重ねてまいりました。まだまだ未熟な私達ではありますが、若い情熱と意気込みを少しでも御理解いただければ大変うれしく思います。尚、今後とも山梨大学マンドリンクラブへの御支援と、御批判をお願い致します。

最後に、私達のクラブに常日頃、献身的な御指導及び御協力して下さる飯島国男先生、比留間きぬ子先生はじめ諸先生方及び演奏会開催に多大な御協力を頂きました大学、高校の皆様、また関係各社に対して深く御礼申し上げます。

◇ 静岡演奏会に寄せて ◇

山梨大学マンドリンクラブ顧問

牧 野 洋
(工学部助教授)

甲府盆地に住むようになって何年かしてから分ったことであるが、山に囲まれた山梨県に育った人達は海に対して憧れを持っている。ある人は「海を見ないと旅行をした気がしない」と言った。

静岡は山梨からもっとも近い海である。その静岡に対する、何がしかの憧れと、何がしかの親近感とによって、マンドリンクラブの静岡演奏会は毎年行なわれるようになった。たとえ身延線がいかにオンボロ列車であろうとも、他が皆新幹線になり、身延線だけが取り残されようとも、この演奏会は続けられていくことであろう。

期待を乗せていったローカル列車が、帰りには満足感を乗せて帰って来て欲しいものである。静岡演奏会の成功を祈る。

手工ギター専門店

楽 器 店

カワセ

東京都千代田区神田小川町2-4

電話 03 (291) 2723-4



プログラム

Ouverture in Fis-moll.....K. Wölki
(序曲嬰へ短調)

交響詩 北 夷、鈴木 静一

————— Conductor 玉上 俊司

La Musica Notturna delle Strade di MadridL. Boccherini
(マドリッドの夜の音楽)

Konzert in C-Dur
für Solo-Mandolin und Zupforchester.....A. Vivaldi
(ソロマンドリンと弦楽の為の協奏曲ハ長調)

第1楽章 Allegro

第2楽章 Largo

第3楽章 Allegro

Mandolin solist 小 倉 一 夫

————— Conductor 玉上 俊司

La Pesarese <Ouverture>G. Filippa
(ラ・ペザレーゼ)

Armor <Grand Fantaisie Concert>H. Bert
(アルモール)

Antico e Moderno <Sinfonia>G. Manente
(今と昔)

————— Conductor 飯 島 国 男

—— 曲 目 解 説 ——

序 曲 嬰 へ 短 調

Andante sostenutoの序奏の最初は、マンドラとマンドチェロによるドイツ的な、重くどっしりした旋律で曲は始まります。それを受けて1stマンドリンが高音部の音でやさしく歌い、さらに2ndマンドリンがオクターブ下の音で受けて奏します。そのあと、crescして高揚してから再び静かに前の主題を変奏し、アレグロに入ります。Allegroは序奏の主題が展開され、ダイナミックに曲は進行してゆきます。ドイツ人の堅牢堅固な国民性を象徴している曲です。

交 響 詩 北 夷

灰色の霧が意地悪く北海道の天地を蔽い隠している中を汽車がノロノロ走り出す。マンドリンの割り切れない不協和音の霧の描写から始まり、しづく、を思わせるギターの点滴が僅かに単調を破る。霧は薄れかけてはまた濃くなる。そのうちいつとはなく汽車の速度が速くなり、霧も薄れて来た。速くなる汽車一薄れる霧。曲の中では、作者の北海道に対し抱いていたイメージである「追分」のモチーフが大きく膨らむ。晴れる、晴れる、いとわしい霧から脱出だ！ 曲は雄大で原始的な北夷の魅惑に憑かれた男の喜びをこの第1主題で歌い、やがて静かになる。ギターの単調なリズムの中を第2主題がOboeにより奏される。衰滅の一途を辿る原住民の哀愴を物語る。これは発展し、展開して追分風のモチーフを引き出し、大和民族の侵入による原住民の悲劇を歌いあげ、曲は再び静かになる。マンドラがすぐ第1主題を奏し、これと追分のモチーフが互いに呼び交し、第1主題の復帰を暗示しつつ急迫し、極点で第1主題が北夷の大自然讃歌として歌いあげられ、北夷に憑かれた男の歓喜を力一杯絶叫し、この楽詩は終る。

マドリッドの夜の音楽

この曲は原曲の弦楽5重奏の主題を、この「マドリッドの夜の音楽」の主題として使い、それを変奏させたものである。

Maestoso 4分の2拍子は、最初ギターが主題の旋律を静かに奏す。途中から1stマンドリンの優雅なオブリガートが入り、そのあと1stマンドリンが表情豊かに旋律を歌う。その旋律の中にマンドラの速いアルペジオが美しく溶け込み、曲はf、ffと移行し主題の変奏をしてゆく。旋律が2ndマンドリンに移ってなお変奏を続け、再びギターによって主題が復帰した後、軽ろやかなリズムにのって最終変奏曲を奏す。曲はゆっくり、消える様に終る。

この曲は、前述の様に主題と変奏である。巧みな変奏と美しいオブリガートが聞きどころである。

ソロマンドリンと弦楽の為の協奏曲 ハ長調

この曲は、ヴィヴァルディのもう1つのマンドリン協奏曲、2つのマンドリンと弦楽の為の協奏曲ト長調と並び、プレクトラム音楽に於けるバロックものとしてよく取り採られる。潤沢な音の響きを聞かせてくれる点では、他の曲に引けをとらない。イタリアバロックの明るさも持っている。

- 第1楽章 Allegro 4分の4拍子
- 第2楽章 Largo 4分の4拍子
- 第3楽章 Allegro 4分の2拍子

ラ・ペザレーゼ

今世紀初頭のイタリアの作曲家 ジュゼッペ・フィリップは「町の祭典」「山国の婚礼」を書いたヴィットリオ・フィリップの父親で、本曲の他に「滅びし国」「四旬節の謝肉祭」「怯える小鳥」「懐しき追憶」等の佳曲を書いている。

ペザレーゼとは「ペザロの町の人々」或いは「ペザロ気質」と言う様な意味である。ペザロは、アドリア海に面したイタリアの町で歌劇「セビリアの理髪師」「ウィリアムテル」等で著名な作曲家ロッシーニの生地である。ペザロ市民は、この事を誇りとし、ペザロ気質というものを大切にしている。作者は、之に敬意を表して作曲し、ペザロの町に捧げた。従って本曲にはロッシーニの歌劇「セミラミエデ」の一節を思わせる箇所が随所に現われる。1899年に発表された。

ア ル モ ー ル

ブルターニュの朝～ヤンの舟唄～乗合馬車～牧歌・ヤンのロマンス～雷雨～終曲の6つの部分から成る幻想曲です。

今 と 昔

作曲者ジュゼッペ・マネンテは1867年イタリアはモルコーネの生まれである。彼の作品は演奏会でよく演奏され、人々に熱愛されている。本曲は1896年頃の作品である。

前半のAndanteは、美しい旋律と潤沢な和音の聞きどころである。Cantabileで1st、2ndマンドリンが悠々と歌う部分は、昔の回想の部分ではないかと思わせる。

後半のAllegro Brillanteは、1stマンドリンの華やかな旋律が独走し、後になって低音部パートも巾をきかせる。Sostenuto Grandioso-Allegro Vivoと経過して曲は終る。

◇ 静岡演奏会に寄せて ◇

東京比留間マンドリン音楽院

比留間 きぬ子

年一回八月末から行なわれる山梨大学マンドリンクラブの小室山の合宿は私の一年の中の大きな楽しみの一つである。手紙に弱い私はつねづね便りもせぬのに八月の声を聞くと何となくクラブからの知らせを心待ちしている自分に気がつく。クラブとの交流は且て私の愛弟子として活躍し、今なお音楽への情熱と意慾を燃し続けて居られる飯島国男氏あることに始まり現在に至っている。

私はこの御縁をいつまでも大切にしたいと思っている。樹木のみどりの中に広いお寺の隅々まで解放されて十日間を過すみんなの素朴にして熱心な合宿を見ているとうらやましい。きびしい練習の一日の中に三度の楽しい食事がある。男子女子の食当番さんが心こめて供してくれる献立では実に美味しい。心にジーンとくるものがある。但し余りいい気になっていると思いがけないゲテモノが現われるオソレもあるが……それもまた現実離れしたお化け大会と共にこのクラブの特産物らしい。定演に向ってひたむきなみんなの練習態度を見ていると合宿は斯くありたいと、東京・関西の学生達にもいつも語り草としている。甲府から静岡への進出も地元と異なる緊張が身のため芸のためで喜ばしい一歩の前進である。

ますますクラブの健やかな発展を心から期待すると共に、本夕御来聴下さいました皆様方にも何卒此のクラブを限りない深い愛情と理解の情をもって末永く見守って上げて下さるよう希う次第である。

◇ 紹 介 ◇

飯 島 国 男 先 生

マンドリンを比留間きぬ子、ヴァイオリン及びヴィオラを福井直弘、チェロを中島方、指揮を沖不可止に師事。

昭和23年に飯島マンドリン四重奏団を結成されてより、26年に飯島弦楽四重奏団を結成、30年にNHKオーディションに合格、32年に山梨県全域の音楽団体を統合、横の連結機関として山梨音楽文化連盟を結成され、理事長に就任、又、その他映画音楽やオペラ「手古奈」「鷹の泉」等の編曲並びに指揮を担当されておられます。

比留間マンドリンアンサンブルの客員としてラジオ、テレビ、レコード等に活躍していましたが、現在は山梨県下のプレクトラム音楽普及並びに指導に尽力しておられます。

(日本マンドリン連盟関東支部委員 日本弦楽指導者協会々員)



秋



一部員紹介

常任指揮者 飯島 国男 部長 小林 誠一郎

正指揮者 玉上 俊司 副部長 飯島 徹

副指揮者 石川 卓 志村 永子

Concert Master 小倉 一夫

Ist Mandolin

- ◎小倉 一夫(和歌山・工3)
- 後藤 正彰(静岡・工4)
- 田副 直樹(熊本・工4)
- 佐野 ひろみ(山梨・教4)
- 田島 愛江(山梨・教4)
- 斉藤 昭子(山梨・教3)
- 新崎 彦則(神奈川・工2)
- 竹内 章(静岡・工2)
- 藤本 均(東京・工2)
- 秋山 明美(山梨・教2)
- 鈴木 美里(山梨・教2)
- 三浦 一美(山梨・教2)

IInd Mandolin

- ◎長島 進(千葉・工3)
- 岩田 直行(三重・工4)
- 布引 英夫(島根・工4)
- 窪田 清子(山梨・教4)
- 風間 美恵子(山梨・教3)
- 石川 卓(愛媛・工2)
- 田牧 圭二(神奈川・工2)
- 日向 菊夫(山梨・工2)
- 宮沢 伸治(山梨・工2)
- 深沢 京子(山梨・教2)
- 望月 政子(山梨・教2)
- 加藤 登志夫(埼玉・工1)
- 神崎 兼次(山口・工1)
- 坂牧 久哉(静岡・工1)
- 雨宮 登志子(山梨・教1)
- 今泉 芙美子(山梨・教1)
- 金丸 恭子(山梨・教1)
- 小林 和美(山梨・教1)
- 小林 裕子(山梨・教1)
- 朝比奈 恵美(山梨・教1)
- 古屋 志津子(山梨・教1)

Mandola

- ◎藤井 清孝(兵庫・工3)
- 猪早 逸郎(京都・工4)
- 広谷 耕作(石川・工4)
- 水野 博文(愛知・工4)
- 山本 真佐子(山梨・教3)
- 坂田 久行(熊本・工2)
- 大竹 ますみ(山梨・工2)

Mando Cello

- ◎飯島 徹(島根・工3)
- 鈴木 時治(静岡・工4)
- 笠原 俊男(神奈川・工4)
- 小島 昭一(愛知・工2)

Guitar

- ◎近藤 勉(愛知・工3)
- 鈴木 康仁(静岡・工3)
- 池上 清春(大阪・工4)
- 小野 隆光(静岡・教4)
- 河野 多鶴子(山梨・教4)
- 市村 智子(山梨・教3)
- 今井 上枝(山梨・教3)
- 志村 永子(山梨・教3)
- 成島 香代子(山梨・教3)
- 斉藤 博(千葉・工2)
- 宮地 信雄(静岡・工2)
- 井上 照美(山梨・教2)
- 坂本 弥生(山梨・教2)
- 河西 邦人(山梨・工1)
- 斉藤 充弘(神奈川・工1)
- 中西 照夫(東京・工1)
- 小林 千春(長野・教1)
- 小松 昌子(山梨・教1)
- 鈴木 田鶴子(山梨・教1)

Contrabass

- ◎小林 誠一郎(東京・工3)
- 波多野 至(島根・工1)

Percussion Instrument

- ◎小松 一博(兵庫・工4)
- 日向 菊夫(山梨・工2)
- 玉上 俊司(神奈川・工3)
- 河西 邦人(山梨・工1)

Flute

- ◎山本 隆(山梨・教3)
- 西沢 昭(愛知・工4)
- 三井 香代子(山梨・教1)

Oboe

- *相沢 和夫(山梨・工4)

Clarinet

- *相羽 聡(静岡・教2)

Faggot

- *梶村 英樹(島根・工2)

(*管弦楽団より賛助)

以上 73名

◎ 各パート首席奏者

○ 次席奏者